資料１

2019年度　佐賀県　唐津市立箸木小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
自ら気づき考え，動く子どもの育成	・汎用的な能力の育成を軸とした，主体的・対話的で深い学びの展開 ・たくましく生きるための健康や体力の育成 ・自己肯定感を育む教育環境の構築と支持的風土の醸成 ・地域人材の積極的な活用と，体験活動・表現活動の充実 ・組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①汎用的な能力の育成を軸とした，主体的・対話的で深い学びの展開

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標の周知	本年度の学校教育目標への児童，保護者の理解を高め，学校への協力に積極的な保護者の割合を85%以上にする。	・学校教育目標と教育活動，家庭生活へのつながりを示しながら，各種通信やホームページで発信をする。 ・各学級の教室や多目的室などの掲示による児童，保護者への周知をする。 ・育友会総会や評議員会で保護者に説明する。 ・全校集会等で定期的に振り返る。	管理部	教頭
教育活動	●学力向上	主体的・対話的で深い学びの継続と展開	・主体的に学習に取組み，自分の考えを深めたり，広げたりできたと実感する児童を85%以上にする。	・主体的に学べるような課題設定や単元を構成をする。児童自身が学びをメタ認知できるような振り返りの場を工夫し，よりアクションプランに沿った授業展開にできるようにする。 ・6年間の学び，9年間のを見据えて，意図的・系統的な指導を行う。 ・地域へ学びの成果を表現，発信する活動の充実を図る。	学び部	牛島・白木
			記述力育成のための汎用的能力の明確化とその育成を図り，5，6年の学習状況調査の到達度を県平均以上にする。	・各学年，汎用的能力の育成のための単元について，言語操作と思考操作を明確に区別し，実践を通して単元構成の見直しを行う。 ・汎用的な力について整理し，各教科内と教科を貫くものを区別し，レインボータイムと各教科との関連や生かし方について明示したカリキュラム改善を行う。 ・「学びのCファイル」活用による個に応じた課題の工夫を行う。		
			読書活動の推進をし、低学年は年間貸出し冊数を100冊以上、高学年は年間読書ページ数8000ページ以上にする。	・図書館を活用した授業の充実を図るとともに，読んだ本の紹介や推薦などの言語活動を通して読書の幅を広げるようにする。		
		【基礎・基本の定着及び学習習慣の確立】 基礎基本を定着させ，日常的に予習・復習に取り組む力の育成	「ぐんぐんタイム」「復習タイム」の充実を図り，基礎基本を定着させ，全国学力・学習状況調査及びCRTで県平均以上にする。	・児童の実態を把握し，ねらいを焦点化し，それらに合わせた授業づくりを行い，段階的に取組をすすめていく。 ・漢字ドリル、計算ドリルなどを活用した基礎・基本の反復練習を実施する。		円城寺
			家庭学習の時間（学年の数×10分＋20分以上）を定着させ，学年相当の家庭学習達成率85%以上にする。	・予習を中心とした課題の工夫を行う。 ・読解・記述力を伸ばすために，週末課題の内容を工夫をする。 ・家庭学習の手引きの活用を促し，自学推進のためのメニューを示したり，展覧会，表彰を行ったりする。		
	○外国語教育の推進	外国語（英語）活動の推進及びコミュニケーション力の育成	新学習指導要領に対応したカリキュラムを編成し，英語に慣れ親しむことができたと言う児童を80%以上にする。	・英語にふれる場や環境を工夫する。 ・児童のALTとの積極的な交流の場を設定する。 ・ALT来校日は校内放送やあいさつ+ひと言を英語で行う。 ・高学年では、各教科の始業のあいさつを英語で行う。		牛島

②たくましく生きるための健康や体力の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
教育活動	●健康・体つくり	日常的に健康・体力づくりに取組む力の育成	家庭と協力し，就寝，起床時間の固定化を進め，規則正しい生活習慣ができていると答える児童を85%以上にする。	・早寝・早起き・朝ごはんの徹底を図るために，元気チェックによる振り返りをする。 ・カリキュラムをもとに，食育、性教育，防煙教室，薬物乱用防止などの授業を実施する。	体つくり部	中島
			昼休みの外遊びなど運動習慣を定着させ，「体を動かすことが好き」と答える児童を85%以上にする。	・体育委員会による外遊びの推進（チャレンジ遊びの種目の設定）をする。 ・運動検定カードの作成及び活用の推進(水泳・なわとび・持久走) ・体力テストの結果を活用し，チャレンジカードを手がかりに児童が自主的に体力向上を図るようにする。 ・運動場，体育館等運動環境の整備・改善を行う。		古館

③自己肯定感を育む教育環境の構築と支持的風土の醸成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・ 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を80%以上にする。	・各教科及び道徳，特別活動などすべての教育活動において，子ども一人一人のよさを認め，自己肯定感を高める取組を行う。 ・ 各教科等や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	管理部	教頭
	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止と早期発見・早期対応並びに再発防止	・いじめの未然防止と早期発見・早期対応並びに再発防止などの予防的生徒指導を行う。 ・お互いを認め合う支持的風土のある学級作りをし、学級が楽しいという児童を85%	・いじめの早期発見のため月1回のいじめアンケートを実施する。 ・いじめを生まない集団作りのため、道徳や学級活動を中心とした授業の充実を図る。 ・いじめ防止対策委員会、いじめ防止対策22条委員会を設置し、いじめ発生への迅速な対応をする。	心つくり部	教頭・鶴田
	●心の教育	豊かな心（思いやり・礼儀・感謝）や人間関係力の育成	・進んで気持ちのよいあいさつをしができる児童を85%以上にする。 ・思いやりのある態度で友達と接することができる児童を85%以上にする。	・あいさつ＋ひと言、ほかほか言葉の推進をする。 ・人権集会や各学年の人権教室の実施により人権週間の充実を図る。 ・強化週間を設定して全学級で人権作文やポスター，標語などに取組み，意識向上を図る。 ・SCを積極的に活用し，各学年年1回以上グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどの実践を行う。 ・Q－Uテストの効果的な活用と講師招聘による研修会を実施する。 ・心に響く詩，きらりコーナーなどの掲示による情操教育の充実を図る。		吉原・竹﨑
			毎月の児童集会や高学年の委員会活動など、児童に主体的に企画、運営をさせることで、児童会活動に進んで協力する児童を85%以上にする。	・計画的に代表委員会を設定し，児童の思いを高め，より主体的に企画、運営する学校行事や集会活動にする。 ・委員会活動や係活動の内容を工夫し，より良い学校，学級づくりを目指す。 ・児童会活動の掲示コーナーの設置し，取組の見える化を図る。		佐藤・浦田
			縦割り班での活動を、年間行事に設定し、縦割り班活動が楽しいと答える児童を80%以上にする。	・縦割り班遊びなど異学年交流を深める場を年10回設定する。 ・縦割り班掃除など異学年が教え合う場を設定する。 ・無言掃除をする重点週間を設定し，感謝の心を育む。		吉原・佐藤
	○特別支援教育	個に応じた学ぶ力の育成	特別支援、教育相談、生徒指導が連携を図りながら、特別支援学級在籍の児童への教育の充実を図る。	・個別カリキュラム(個別の指導計画)を作成し，全職員で共通理解を図り支援する。 ・児童の将来を見据え，この時期にどのような力を身につけさせるかについて洗い出し，生活単元を中心に，各教科等と関連付けながら，児童の自立を目指す。また，学習の成果を実感できる発表会、交流会を実施する。		浦田
			全職員で情報を共有し、通常学級における配慮を要する児童への教育を推進する。	・個別の支援計画を効果的に活用する。 ・校内教育支援委員会を年間計画に位置づけ計画的に実施する。 ・地域との連携により，児童の困り感や支援の在り方について情報を得る。 ・夏季休業中における保育園、幼稚園訪問を実施し，配慮を要する園児についての情報収集を行う。 ・講師招聘による特別支援研修会を行う。		吉原

④地域人材の積極的な活用と，体験活動・表現活動の充実

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
学校運営	○地域連携	地域と連携を図りながら郷土を誇りに思う児童の健全育成	地域の人・もの・ことを活用した体験型学習を、全学年年間3回以上行う。	・厳木町教育フェスタを活用した体験活動の場を設定する。 ・生活科や総合的な学習等のカリキュラムへの位置づけを明確にして，効果的に実施する。 ・地域の方と学んだことを発信するとともに，学ぶよさを実感し、感謝の気持ちを伝える場	管理部	教頭
			幼保小中高連携として、どの学年も交流授業を1回以上実施する。	・幼保小中合同保健委員会を年1回実施し，課題を共有し，解決に向けて情報交換を行う。 ・幼保小中連絡協議会全体会を年3回実施し，連携強化を図る。 ・授業交流会を実施（小中・幼小）し，特に特別支援の視点で児童生徒の抱える困り感や		
			地域見守りの充実及び学習ボランティアの効果的な活用をする。	・児童・民生委員会と連携し，見守り強化を図る。 ・学習ボランティア人材バンクの充実を図り，年間計画に位置づけて効果的に活用する。 ・取組や活動の様子を紹介する校内掲示コーナーを更新し，児童が地域の方とのかかわりを実感できるように工夫する。 ・学校だより、学級通信，ホームページなどで紹介し，地域で学ぶよさを発信する。		

⑤組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
職員	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の時間外勤務の縮減	・適正な校務分掌の分担を行い，全職員の月平均時間外勤務の時間を30時間以下にする。	・定時退勤推進日等の設定や積極的な休暇取得の推奨などによって、長時間労働の縮減・解消を図る。 ・教材等の共有や校務の情報化による業務の効率化を図る。 ・教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。	管理部	教頭

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目